

大分市学校教育指導方針

本市の目指す学校教育

**確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育成し、
自ら学び、自ら考える力などの生きる力を育む学校教育**

本市の目指す子ども像

夢や希望をもち、
未来を切り拓く心豊かで
たくましい子ども

自らの可能性を發揮し
他者と協働しながら、
主体的に生きる子ども

生涯にわたって学び続ける
基礎を身に付けた子ども

本市の重点課題と指標

I 学校や地域の実情に応じた小中一貫教育の推進

学校や地域の特色を生かし、
9年間を見通した系統的な
教育課程の編成、実施、改善

II 地域とともにある学校づくりの推進

教育課程の趣旨について、
家庭や地域との共有を図る
取組を行っている学校の割合
の増加

(小学校 72.2% 中学校 64.2%)

III 確かな学力の定着・向上

各種学力調査において、
全ての実施教科の結果が
全国平均以上

(小学校 73.3% 中学校 95.6%)

IV 豊かな心を育む教育活動の充実

自分にはよいところがあると
思う児童生徒の割合の増加
(小学校 79.8% 中学校 79.9%)

V 体力の向上と心身の健康の保持増進

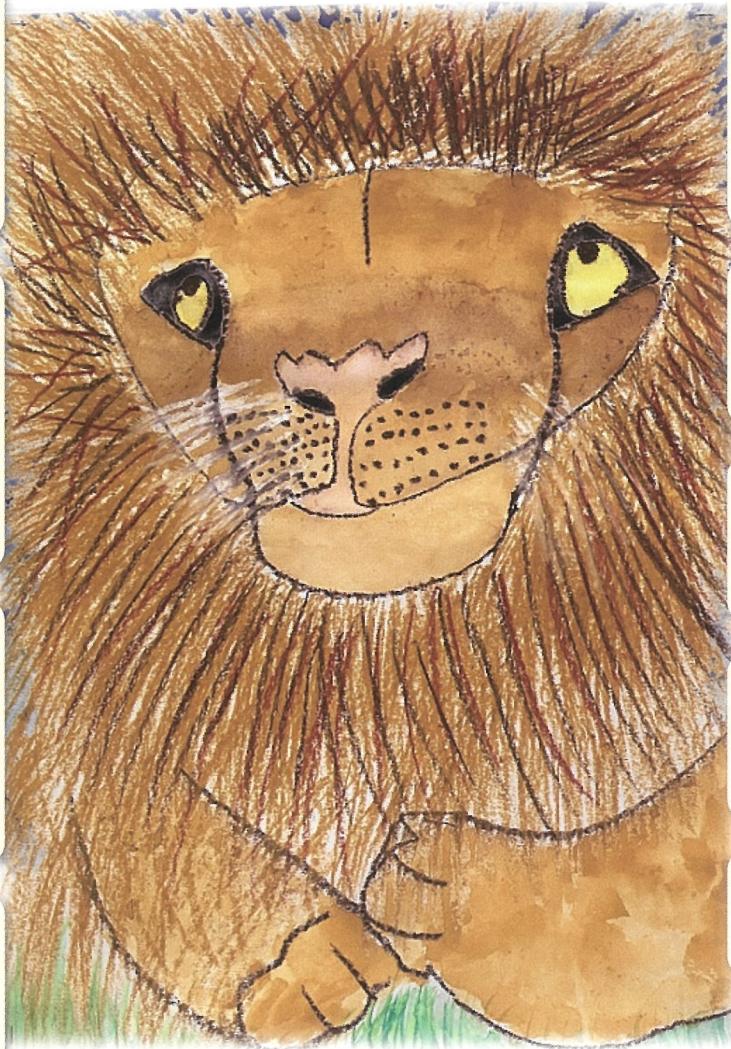
新体力テスト(大分市)における総合評価がC以上の児童生徒の割合の増加
(小学校 79.8% 中学校 85.0%)

VI 一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進

VII 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実

VIII 豊かな人間性や社会性を育む生徒指導の充実

IX 人権尊重の精神を育む教育活動の充実



※()は令和4年度における
大分市の実績値

はじめに

教育は、子どもたちの将来の幸福な人生を思い描きながら行われるものであり、そのために学校は、子どもたち一人一人を主役として、多様な他者との関わりや経験・体験を通して得られる喜びや感動によって、たくましく豊かな心が培われる育ちの場でなければなりません。

近年、健康寿命の延伸による「人生100年時代」や高度先端技術の発達による「超スマート社会（Society5.0）」の到来によって、社会の在り方そのものが急激な変化を遂げています。また、新型コロナウイルスの感染拡大から3年が経過する中、学校教育を含む社会活動の在り方をどのように再構築すべきか、今、私たちはどのように行動すべきかなどの問い合わせに対し、明日への希望を失うことなく、様々な工夫を重ねながら着実な歩みを続けています。

このように急激に変化する時代の中で、学校教育では、学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが求められています。

現在、本市におきましては、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」のバランスのとれた「生きる力」の育成に向け、市内全中学校区において、学校、地域の実情に応じた小中一貫教育を推進しており、児童生徒の学力の向上や自尊感情の高まりなどに加え、教職員間の協働意識の醸成など、多くの成果が見られております。また、昨年度に引き続き、人権・同和教育に関する教職員意識調査の結果を活用した教職員研修の充実やいじめ・不登校の未然防止に向けた取組及び組織的対応を行っているところであります。

「令和5年度大分市学校教育指導方針」は、このような状況を踏まえ、本市で取り組むべき教育をめぐる課題を明らかにし、各学校における教育活動と取組の重点を明確にすることを目的として策定いたしました。特に本年度は、情報活用能力の育成に向けた一人1台端末等のICTを効果的に活用した学習活動の充実、「大分市道徳指導ハンドブック（改訂版）」に基づいた心に響く魅力ある道徳科授業の在り方、自ら積極的に健康な生活を実践することができる資質・能力の育成に向けた生活習慣に関する指導の充実などを明記したところであります。

各学校におきましては、本指導方針の趣旨を十分に踏まえ、各重要課題の具現化に向けた取組を充実させるとともに、「一人一人を主役に据えた教育」を目指し、子どもたちが生き生きと学び、感じ合い、活動することができるよう、子どもや地域の実態に応じ、創意工夫を生かした特色ある学校づくりを一層推進することを期待します。

令和5年4月

大分市教育委員会

教育長 佐藤 光好

参考 ●令和5年度大分市学校教育指導方針<全体版>

→大分市HP»子育て・教育»学校教育の方針・制度»大分市学校教育指導方針

[表紙絵] 「はくりよくまんてん! ライオン」（第61回福田平八郎賞 入賞作品）

[作 者] 大分市立佐賀関小学校 1年 伊藤 蒼さん（学校名、学年は、受賞時のもの）

I 学校や地域の実情に応じた小中一貫教育の推進

本市では、これまでの取組を通して、児童生徒の学力の向上や自尊感情の高まりなどに加え、教職員間の協働意識の高揚や小中学校間の系統性を踏まえた授業力の向上など、多くの成果が見られている。

各学校においては、こうした取組の成果を踏まえ、今後とも、自ら学び、自ら考える力などの生きる力を育むため、9年間を見通した系統的な教育課程を編成し、5つの視点に沿って小中一貫教育の推進に努めることが必要である。

| | | |
|-----|---------------|---|
| 視点1 | 目指す子ども像の共有 | 各中学校区における目指す子ども像や取組の重点等について、小中学校の教職員間で共有を図る |
| 視点2 | 学びの連続性の確保 | 教育課程の編成や指導方法の工夫改善を図り、9年間の学びの連続性を確保する |
| 視点3 | 児童生徒の交流 | 合同行事や交流活動により、児童生徒が共に活動する機会を充実する |
| 視点4 | 教職員間の連携・協働 | 中学校区の取組の重点等に基づき、小中学校の教職員間の連携・協働を深める |
| 視点5 | 家庭・地域社会への情報発信 | 学校ホームページや広報紙を充実させ、小中一貫教育の取組状況や成果・課題等の積極的な情報発信に努める |

本年度の重点

- 学校や地域の特色を生かし、9年間を見通した系統的な教育課程の編成、実施、改善
- 小中合同授業研究会等を通した組織的な授業改善
- 小中一貫教育の取組状況、成果・課題の検証結果及び今後の取組について、家庭や地域社会への積極的な情報発信
・学校ホームページや広報紙の充実

各中学校区の取組

■ 小中一貫教育全体計画及び年間指導計画等に基づく取組の充実を図る

- 全校又は特定の学年・集団での児童生徒の合同行事、交流活動(オンライン交流を含む)の実施
- 中学校区作成の9年間を見通した学習・生活のきまりの活用、改善
- 取組の成果・課題の検証を通した指導計画等の改善 等

モデル校

■これまでの取組の一層の充実を図り、研究成果等の還元に努める

- 小中合同授業研究会の公開等を通した成果の還元
- 小中学校間での乗り入れ授業の実施 等

【1中1小モデル校】

吉野・竹中・佐賀関・野津原中学校区

【1中複数小モデル校】

鶴崎・大在・種田東・坂ノ市中学校区



実践発表校

■学校や地域の実情に応じた取組の充実を図り、研究成果等の還元に努める

- 小中合同研修会等を通した計画的・継続的な研究の推進
- 公開研究発表会、中間報告会等を通した成果の還元 等

【実践発表校】

王子・大東中学校区（3年次）※公開研究発表会

城東・東陽中学校区（2年次）※中間報告会

（大分市小中一貫教育推進フォーラム）

城南・滝尾中学校区（1年次）

大分市小中一貫教育校 賀来小中学校 神崎小中学校 の取組

■ 大分市小中一貫教育校ならではの特色ある取組の充実を図り、研究成果等の還元に努める

- 教職員全員に兼務発令
- 前期(1~4年)、中期(5~7年)、後期(8・9年)の3期に応じた教育活動
- 第1学年から英語教育を実施
- 中期での一部教科担任制の実施
- キャリア教育の推進
- コミュニティ・スクールの活用
- 9年間を見通した生活・学習のきまりの活用や各期別集会の実施 等



義務教育学校 碩田学園の取組

■ 義務教育学校として、9年間の連続性を重視した特色ある教育活動の展開に努める

- 日常的な異学年交流等による心育ての充実
- コミュニケーション能力を育む教育の充実
- 前期(1~4年)、中期(5~7年)、後期(8・9年)の3期に応じた教育活動
- 第1学年から英語教育を実施
- 中期での一部教科担任制の実施
- コミュニティ・スクールの活用
- 9年間を見通した生活・学習のきまりの活用や各期別集会の実施 等



II 地域とともにある学校づくりの推進

子どもの豊かな学びと育ちを創造するためには、学校が家庭や地域社会との連携・協働を図り、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、主体的に創意工夫した教育活動を展開することが重要である。

各学校においては、家庭や地域社会と目指す子ども像を共有し、学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うとともに、学校運営の組織的・継続的な改善に努め、地域と一緒に子どもたちを育む「地域とともにある学校」づくりを推進することが必要である。

本年度の重点

- 「大分市教育課程編成要領」に基づく教育課程の編成、実施、改善
- 児童生徒の安全・安心を重視した危機管理体制及び相談体制の充実
- 児童生徒との信頼関係に基づく指導の充実及び学年・学校全体での学習や生活のきまり等の徹底
- 学校公開、学校ホームページ等あらゆる機会を通じた情報の積極的な収集・発信
- 学校経営計画表と連動した学校評価の充実及び学校運営協議会制度等の活用による学校運営の改善
- グローバル化に対応した国際理解教育等、今日的教育課題に対応した教育活動の推進
- 児童生徒の情報活用能力の育成に向けた情報教育年間指導計画の作成、実施、改善



地域との連携によるサツマイモの苗植え（生活科）

参考 本市では、地域とともにある学校づくりの推進に向けて、様々な資料等を作成しています。必要に応じて、活用してください。

●リーフレット「大分市の学校評価（2019年度版）」

→大分市HP»子育て・教育»学校教育の方針・制度»学校評価

III 確かな学力の定着・向上

子どもたちの生きる力を育む上から、「基礎的・基本的な知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく育成し、確かな学力の定着・向上を図ることが重要である。

各学校においては、子どもたちの発達の段階を踏まえ、課題解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実現を目指す中、全ての学習の基盤となる言語能力、とりわけ書く力を育成することが必要である。

本年度の重点

- 「大分市授業力向上ハンドブック」等に基づいた授業づくりの推進
 - ・単元や1単位時間の授業における「見通し」と「振り返り」のある問題解決的な授業展開の推進
 - ・一人1台端末を効果的に活用した分かりやすい授業展開の工夫改善
 - ・卒業論文の作成を通じた書く力の育成及び探究的な学習の充実
 - ・教科指導マイスターの活用による授業改善の推進
 - ・学校図書館の活用による読書活動及び学習活動の推進
- 「大分市小学校英語教育推進ハンドブック」等の活用による小中学校的英語教育の指導と評価の充実及び円滑な接続
- 「T-LABO」において配信する授業動画等の活用



一人1台端末を活用した授業（国語科）

参考 本市では、児童生徒の確かな学力の定着・向上を図るために、様々な資料等を作成しています。必要に応じて、活用してください。

●大分市学力向上ハンドブック ●大分市授業力向上ハンドブック

●大分っ子基礎学力アップ「指導資料」（学力調査結果、分析・考察及び改善のポイント）

→大分市HP»子育て・教育»学校教育の方針・制度»大分市の学力向上の取り組み

●大分市小学校英語教育推進ハンドブック（実践事例集） ●Small Talkアイディア集

→Te-Comp@ssファイル管理»03_各種教育情報»01_市教委»02_学校教育課6[英語教育推進室]

※令和5年度の基礎学力向上研究推進校の公開研究発表会は、西の台小学校、鷺野小学校、原川中学校において実施する。